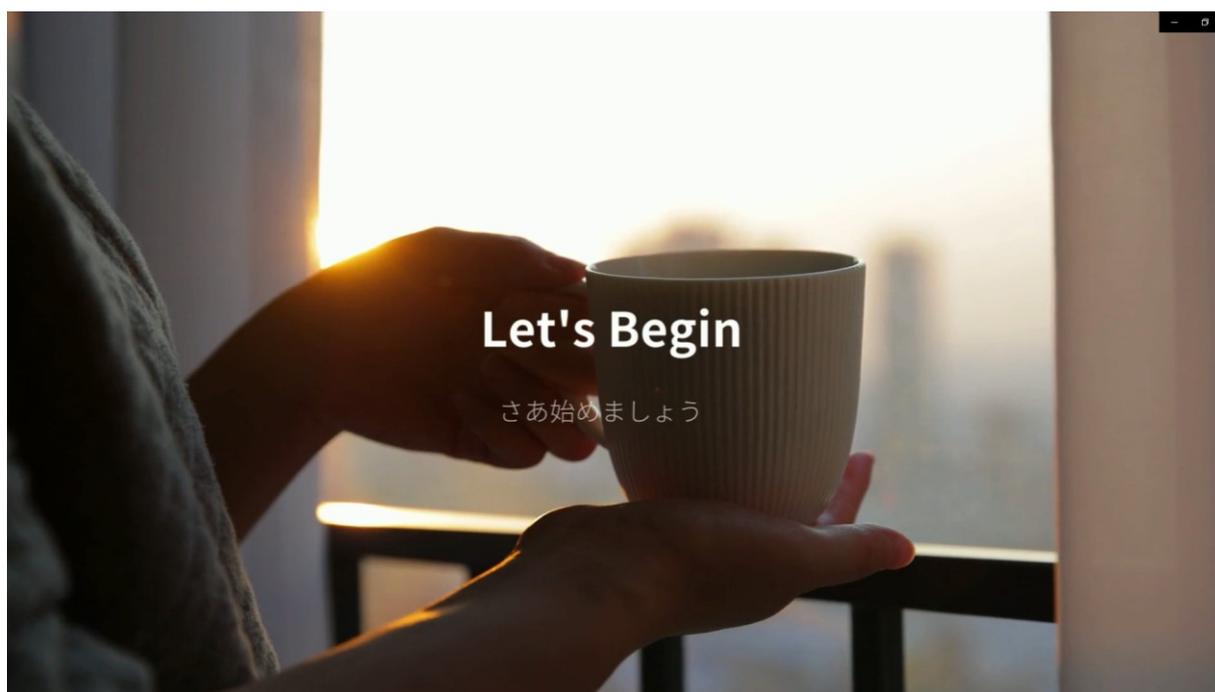


特定非営利活動法人 三鷹ネットワーク大学推進機構
「民学産公」協働研究事業 成果報告書

三鷹市における在宅シニアケアを中心とした
スマート・コミュニティー・プラットフォーム構築に向けた研究



アークプランニング株式会社

東京都中央区日本橋 3 丁目 15 番 8 号アミノ酸会館ビル 8F

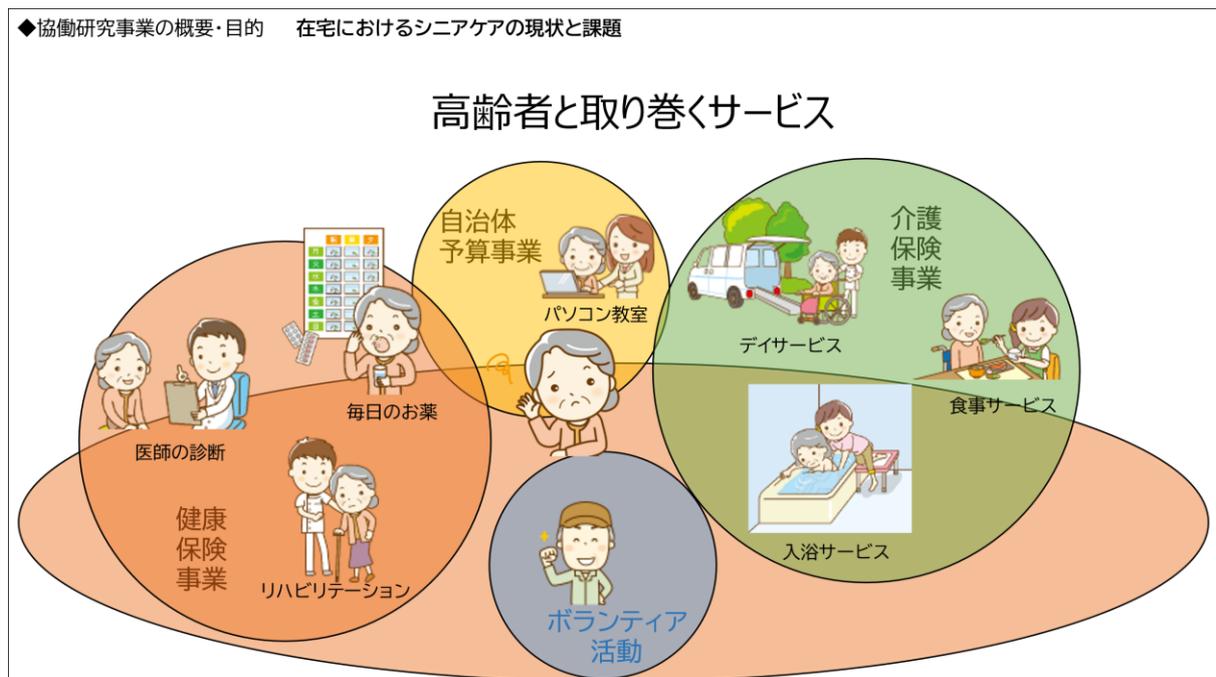
目次

1. 「民学産公」協働研究事業(協働研究事業)の概要・目的
2. 申請団体のプロフィール
3. 協働研究事業の期間
4. 協働研究事業の背景
5. 協働研究事業の詳細 協働研究事業（実証実験）の詳細実験結果
6. 実験の考察
7. 今後の計画
8. その他

1. 「民学産公」協働研究事業(協働研究事業)の概要・目的

研究の概要

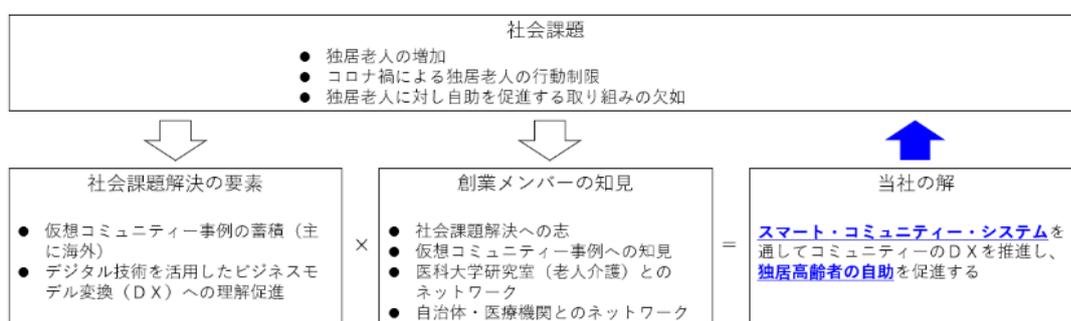
2025年頃、団塊世代が後期高齢者になり、対象人口が急増する。認知症高齢者の人口も増大していく。一方、独居の親に対する子供世代の不安は、「心身の健康の不安」、「外出や日常生活行動の心配」が上位を占め、潜在的に「軽度の認知症や介護の必要」も強い不安となっている。独居の親をもつ子供世代の見守り支援サービス利用状況・利用意向は、「すでに利用」、「具体的に検討中」、「必要性を強く感じる」の合計が23%であった。(シードプランニング社 2015年版高齢者見守り・緊急通報サービスの市場動向)。このように、今後も増加を続ける独居高齢者が今後も自立した生活を継続するために、自治体・企業がその特性に着目したサービスを効率的に提供することを目的に、各地の自治体や企業が独自にタブレット端末に注目し配布を進めている状況であり、厚生労働省も一般介護予防事業への加点を年々高めるなど本分野への注目は高い。一方でソフト面での整備がかなり遅れている状況である。



研究の目的

超高齢化社会における健康なコミュニティーを創出すべく、デジタル技術の発達や、海外でのコミュニティーケアの事例等から、「スマート・コミュニティー・プラットフォーム」の構築の可能性を研究し、地域社会が抱える様々な課題解決への貢献を目指す。

研究を主導するアークプランニング株式会社では広汎なコミュニティーにおけるデジタルを含めたトランスフォーメーションを志向し活動しており、今回の研究成果を基に実装まで含め活動をしていく計画である。また、今後三鷹市が志向している地域通貨の導入についても、本取り組みのようなコミュニティーでのサービス循環モデルは適合度が高く、本取り組みの将来的な合流も視野に入れられると考えられる。

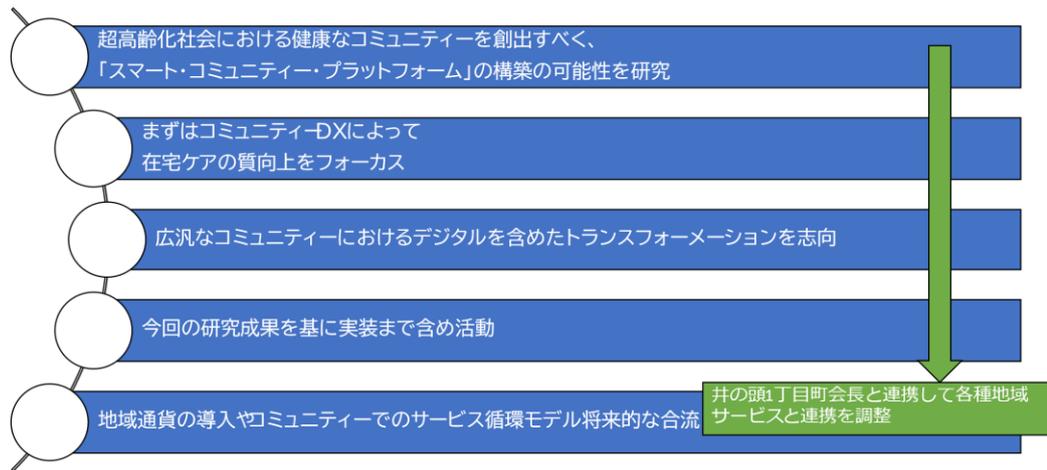


目指す姿

デジタル技術の活用によりコミュニティー・サービスを見える化することにより、コミュニティー・サービスの最適化・効率化を促しコミュニティー参加者が暮らしやすい社会づくりを実現する。

1. コミュニティー・サービスを見える化し、最適化・効率化したサービスプラットフォームの構築
2. コミュニティー・サービスを構成する、医療、介護、行政、ボランティア、地元企業のサービス連携
3. 上記のプラットフォームの運用を支えるウェブシステム（IT）およびコンシェルジュ（ヒト）の一体的なサービス体制

研究の目的



2. 申請団体のプロフィール

会社名：Arc Planning Corporation/ アークプランニング株式会社

所在地：東京都中央区日本橋3丁目15番8号 アミノ酸会館ビル8F

事業内容

1. 自社 Asset と Core の再定義による新規事業創出と DX Roadmap 策定支援
2. Pilot による初期検討と DX Roadmap の再構築支援
3. 戦略基盤 Platform の構築支援
4. Smart Community System の企画・設計・構築支援
5. Global Alliance/Sourcing/Open Innovation 組成支援
6. Global Acceleration Program の運営支援
7. Technology 視点による Art Project による Publication
8. Project 運営、独自 Database の構築、Data からの新規事業創出支援

3. 協働研究事業の期間

令和3年7月1日 ～ 令和4年2月6日

4. 協働研究事業の背景

1 一人暮らしの高齢者

- ・コロナにおける社会活動の制限・運動抑制
- ・自助による生活の困難さ、コミュニケーションの困難さ

2 高齢者と離れて暮らす家族

- ・安否は気になるが、毎日確認するのは煩雑である
- ・介護は負担が大きい。在宅ケアの負担やコロナにおける活動制限

3 行政

- ・コミュニティー・社会属性軸で課題抽出や政策検討をすることができていない
- ・コロナにより疎密の関係性からコミュニティー単位での最適化やまちの整備が困難

4 企業

- ・コロナによって商店街や地元企業の活性化が困難
- ・コロナによる制限によってコミュニティーに寄り添うサービスの開発が困難

このように、今後も増加を続ける独居高齢者が今後も自立した生活を継続するために、自治体・企業がその特性に着目したサービスを効率的に提供することを目的に、独自施策を行っており、厚生労働省も一般介護予防事業への加点を年々高めるなど本分野への注目は高い。一方でソフト面での整備がかなり遅れている状況である。

介護サービスと高齢者

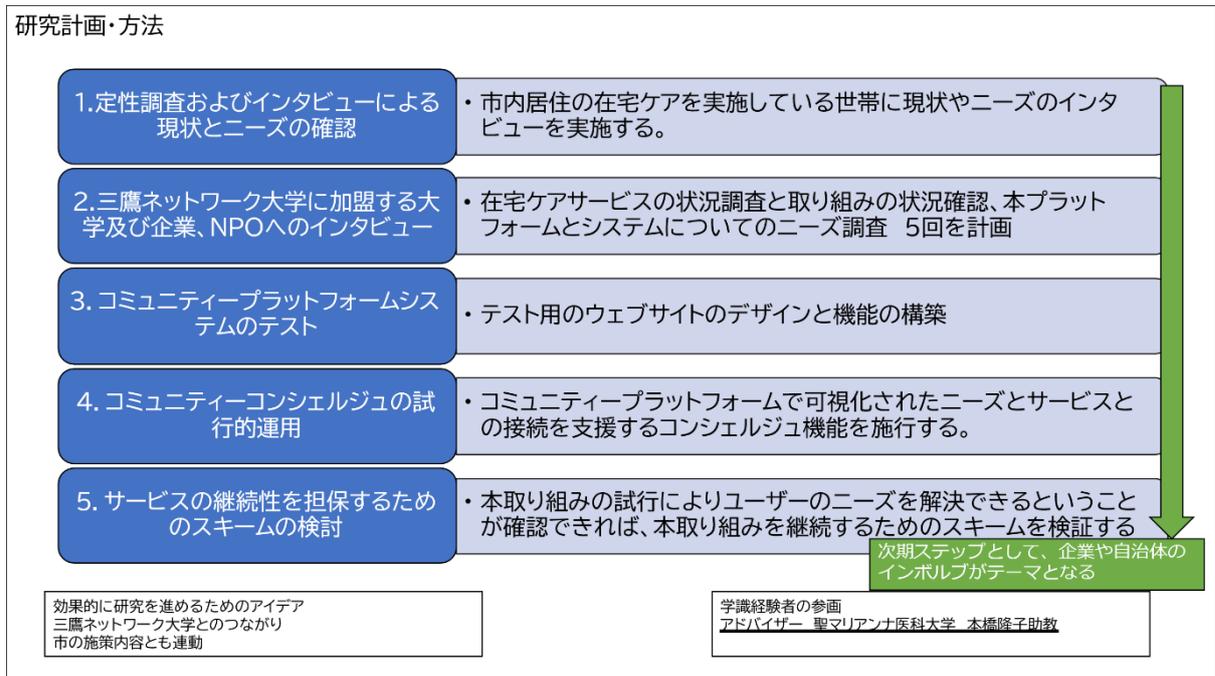
- ・独居高齢者や認知症患者には現状のサービス体系だけでは、サービス間の連携が取れず、質の低下につながる可能性がある。
- ・また、自活能力が乏しくなる傾向があり、サービス側への負担が増える傾向がある。
- ・これらの高齢者は増加する傾向にあり、今後問題が顕在化する可能性が高い。



©Arc Planning Corp.

5. 協働研究事業の詳細 協働研究事業（実証実験）の詳細実験結果

・研究計画について



1. 定性調査およびインタビューによる現状とニーズの確認

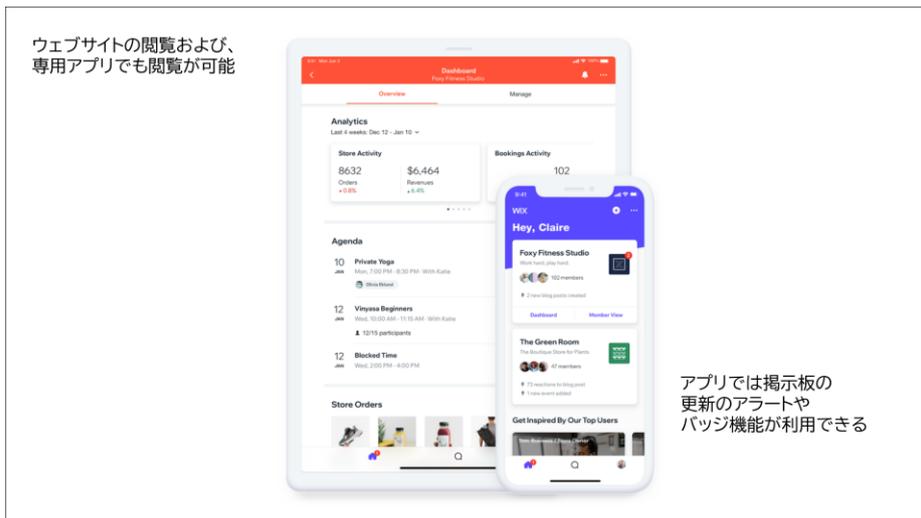
- 市内居住の在宅ケアを実施している世帯に現状やニーズのインタビューを実施した。
 - ・井の頭地区の住民モニターからは合計5回程度のインタビューを実施
 - ・井の頭地区で開催されている Zoom おさらい会に参加し、参加者の声からのフィードバックを入手した。

2. 三鷹ネットワーク大学に加盟する大学及び企業、NPO へのインタビュー

- 在宅ケアサービスの状況調査と取り組みの状況確認、本プラットフォームとシステムについてのニーズ調査
- 大学(候補:杏林大学等)および参画する学識経験者であるアドバイザーとの面談による研究計画や内容の相談を実施

3. コミュニティープラットフォームシステムのテスト

- テスト用のウェブサイトのデザインと機能の構築
 - ・登録する協力者の世帯への説明と登録するボランティアやサービス事業者からの協力者のリクルート
 - ・コミュニティー情報の入力と、関係するメンバーの登録の試行
 - ・アジャイルでのコミュニティープラットフォームシステムのテストサイトの構築
 - ・実際の運用のテスト。サーバー登録と稼働
 - ・テスト結果のフィードバックと改修計画の立案



4. コミュニティーコンシェルジュの試行的運用

- コミュニティープラットフォームで可視化されたニーズとサービスとの接続を支援するコンシェルジュ機能を施行する。
 - ・コンシェルジュについては、地域に根差す三鷹市シルバー人材センターの活用を計画しており、持続的な雇用創出と地域でのサービスの循環を志向した取り組みを計画した。
 - ・プラットフォームを利用し、ユーザー（協力者）からの問い合わせ対応のデモを行う。

効果的に研究を進めるためのアイデア

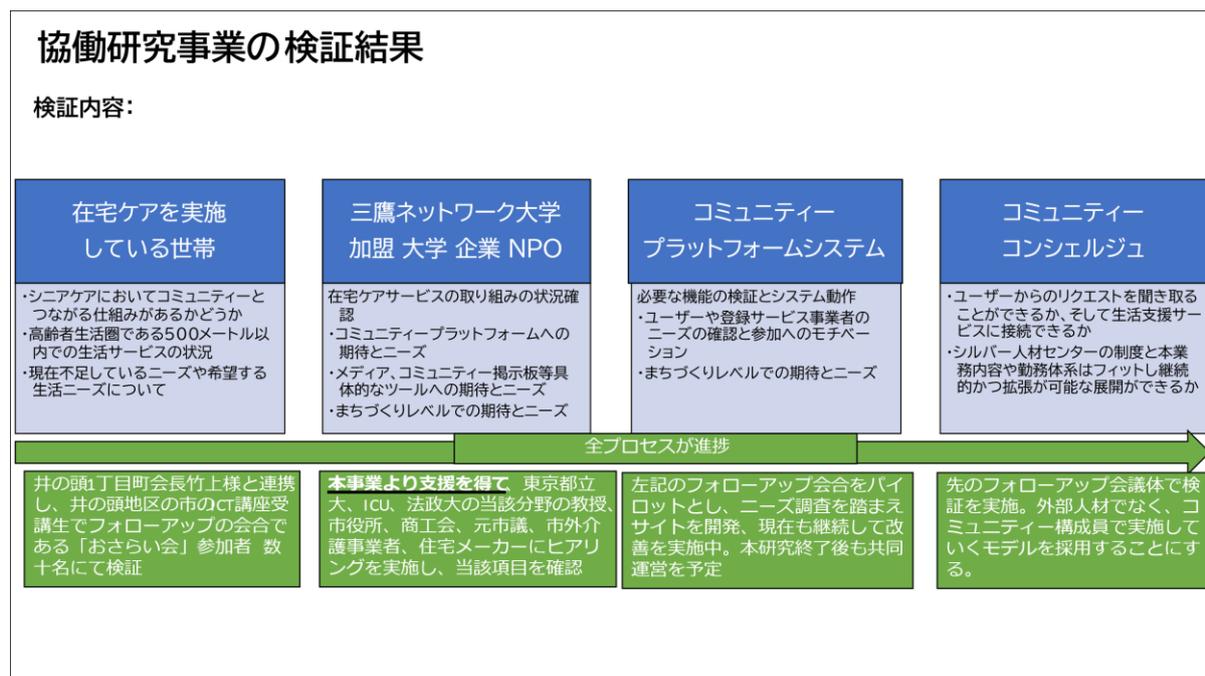
三鷹市およびその近隣都市にある 20 の教育・研究機関を正会員、約 60 の企業・団体を賛助会員とする三鷹ネットワーク大学とのつながりを活かし、民学産公の協同で、教育・学習機能、研究・開発機能を広く開拓していく。またこれまで市役所とも面談を重ねており、市の施策内容とも連動した調査を展開していく。

学識経験者の参画

アドバイザー 聖マリアンナ医科大学 本橋隆子助教授

聖マリアンナ医科大学にて、予防医学の研究を行っている。同分野は、高齢者の自助促進に関しても関連が深く、本橋氏は高齢者介護に携わる自治体・事業者との強いネットワークを有している。それら知見を活かし、スマート・コミュニティ・システムについて助言を頂く。

検証結果について



1. モニターとなる在宅ケアを実施している世帯から下記を検証

- ・シニアケアにおいてコミュニティとつながる仕組みがあるかどうか
- ・高齢者生活圏である 500 メートル以内での生活サービスの状況
- ・現在不足しているニーズや希望する生活ニーズについて
→仕組みはあるが、ニューノーマルへの対応の課題、デイサービス利用者以外での新たなコミュニティへの参加の心理的課題、家族の負担の課題を抽出

2. (三鷹ネットワーク大学に加盟する) 大学及び企業、から下記を検証

- ・在宅ケアサービスの取り組みの状況確認
- ・コミュニティプラットフォームへの期待とニーズ
- ・メディア、コミュニティ掲示板等具体的なツールへの期待とニーズ
- ・まちづくりレベルでの期待とニーズ
→コロナで活動が制約されているシニア層、特にアクティブシニアにこのようなデジタルツールの活用のニーズが高く、普及に向けた期待をヒアリングした

3. コミュニティープラットフォームシステムから下記を検証

- ・必要な機能の検証とシステム動作
- ・ユーザーや登録サービス事業者のニーズの確認と参加へのモチベーション
→ウェブサイト構築にあたっては、前述の Zoom おさらい会に参加、またアカデミアインタビューからフィードバックを得た。WIX システムの利点、見やすさ、文字の大きさの工夫、ユニバーサルデザイン、グーグルアナリティクスの利用について検討し、反映した。

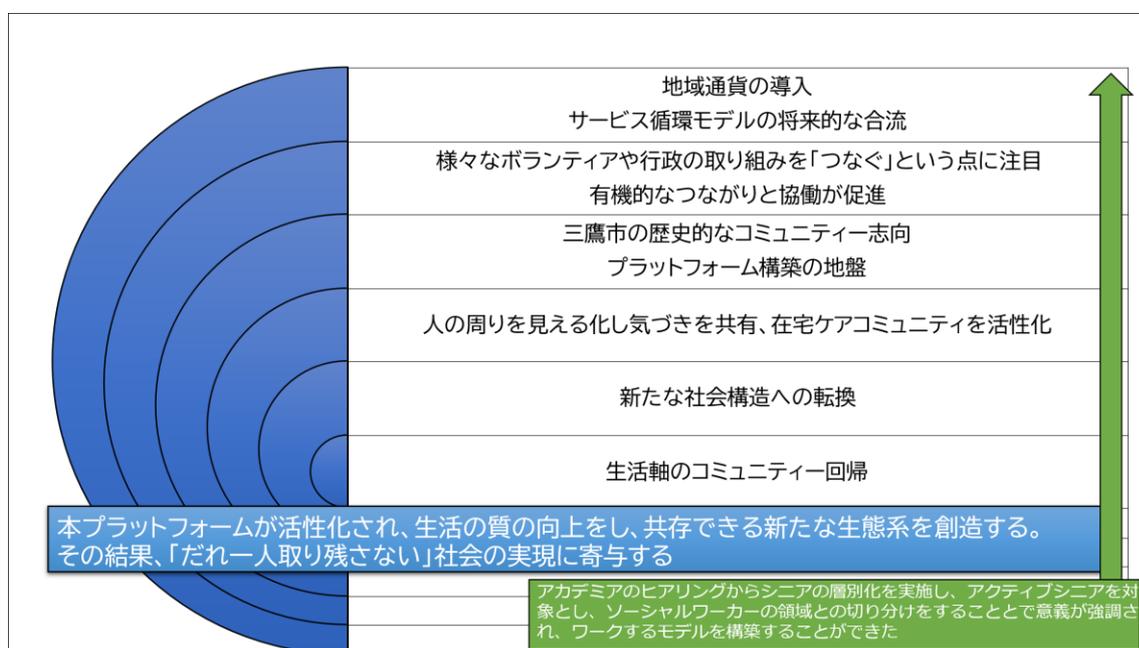
4. コミュニティーコンシェルジュから下記を検証

- ・ユーザーからのリクエストを聞き取ることができるか、そして生活支援サービスに接続できるか。
- ・シルバー人材センターの制度と本業務内容や勤務体系はフィットし継続的かつ拡張が可能な展開ができるか。
→上記1. 2からのフィードバックにより、現状、生活支援サービスへの接続等の福祉サービスへの接続のニーズは強くなかった。

6. 実験の考察

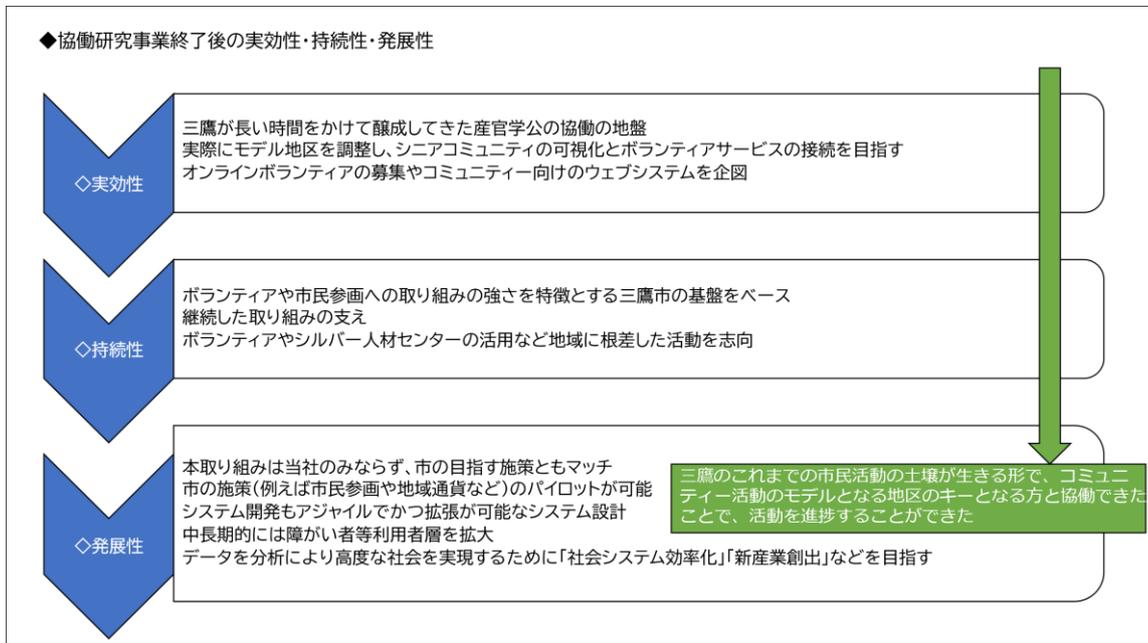
現在、私たちの生活軸は従来の在り方から変化し、よりコミュニティに回帰している。生活を取り巻く広汎な産業もトランスフォーメーションを求め中、新たな社会構造への転換が求められている。新たな社会像において、人の周りを見える化し気づきを共有することで、在宅ケアコミュニティを活性化し、暮らしやすさを提供することを目指しソリューションモデルを実証した。三鷹市は歴史的にコミュニティ志向が強く、プラットフォーム構築の地盤が整っている。様々なボランティアや行政の取り組みを「つなぐ」という点に注目して取り組みが始まり回りだせば、ほかの自治体では見られなかったような、より街として有機的なつながりと住民同士、また地元企業、自治体との協働が促進されるものになると示唆された。また、今後三鷹市が志向している地域通貨の導入についても、本取り組みのようなコミュニティでのサービス循環モデルは適合度が高く、本取り組みの将来的な合流も視野に入れられると考えられる。

また、本取り組みの試行によりユーザーのニーズを解決できるということが確認できたため、本取り組みを継続するためのスキームについても考察した。本取り組みをボランティアベースで行い、コミュニティで運用していき、最低限の保守運営費のみを会費として徴収するなど、モデルの数値的な検証も今後検証されれば、井の頭地区以外への展開も地域の状況に応じ可能となることが示唆された。



7. 今後の計画

これまで三鷹市役所および三鷹ネットワーク大学参画企業数社と協議をしており、また実際に市内に居住し在宅介護を実施している世帯からも具体的に本取り組みの期待を受けている状況である。参加団体としての記載はしていないが、市内での生活の質の向上に向けた意義がある取り組みになるものと考えている。



◇実効性

三鷹が長い時間をかけて醸成してきた民学産公の協働の地盤を活かし、シニアコミュニティの可視化とボランティアサービスの接続が可能となるプラットフォームの基盤を構築できた。

◇持続性

ボランティアや市民参画への取り組みの強さを特徴とする三鷹市の基盤をベースにプラットフォームを構築していくため、継続した取り組みの支えがあると考えている。また、ボランティアやシルバー人材センターの活用など地域に根差した活動を志向しており、それに沿った設計にしている。

◇発展性

本取り組みは当社のみならず、市の目指す施策ともマッチしていると考え、今後の施策として展開できる可能性を見出すべく、来期以降は市の施策(例えば地域通貨など)パイロットが可能のように、システム開発もアジャイルでかつ拡張が可能なシステム設計を計画している。また、スマート・コミュニティ・システムの当

面の対象はシニアの在宅ケアであるが、中長期的には障がい者等利用者層を拡大していきたい。

本取り組みにより理解されたデータを分析することで、より高度な社会を実現するために「社会システム効率化」「新産業創出」などを目指すサービスとしていく計画である。

また、これまで、三鷹まちづくり総合研究所においても、「サステナブル都市三鷹研究会」や「オープンソース・ソフトウェアを活用した地域活性化に向けた研究会」などの活動および、「地域活動団体の連携・協働を推進する ～地縁型コミュニティとテーマ型コミュニティ～」についての研究事業もあり、その中では「地域で活動する様々な団体の相互交流や相互理解がまだ十分とは言えず、これからのコミュニティ創生事業の支援・展開に当たっては、多くの活動団体が利用している市民協働センターやコミュニティ・センターを中心に、地域の多様な担い手をつなぐ取り組みを進める必要がある。」、「地域ケアネットワーク事業をコミュニティ創生事業の中核として支援・展開し多様なサービスの担い手をつなぐ要となる役割が、市と地域の協働のパートナーである住民協議会に期待される。」、「三鷹方式のコミュニティ行政は、全国に先駆けた市民と行政との協働によるまちづくりのリーディングケースとして誇れるものである」とした報告があった。

また、「三鷹市快老プロジェクト事業 デジタル端末の利用促進」の取り組みや、まちづくり総合研究所のレポートからは「高齢者や主婦を含めて起業が多く、新たな働き手が活躍するとともに、製造小売りなど高付加価値の個性的な店舗が集積することにより、地域内経済循環の向上と都市の魅力向上につながっている。コミュニティビジネスとしての成立の可能性も検討していくべきである。」とした報告もあった。

これらの研究で提起された方向性についても、本研究が検証したプラットフォームを展開することで、例えば認知症サポーターや傾聴ボランティアをコミュニティシステムでつないでいくなど、スマートコミュニティとして有機的にワークしてくるものと期待される。

目指す姿

三鷹市民の生活のエンジンとなるスマートコミュニティの創出

コロナで停滞する生活サービスをDXし、コミュニティが生活の質を向上させていく



8. その他（成果物を示す画像データを電子データ）

制作した成果物のデータ

ウェブサイト構築にあたっては、WIX システムの利点、見やすさ、文字の大きさの工夫、ユニバーサルデザイン、グーグルアナリティクスの利用について検討し、反映した

サイト URL（公開済み）

<https://arc-space.wixsite.com/begininokashira>

サイトの各ページおよび機能の画像データ





予定をクリックすると直接Zoomに参加（もちろんは申込画面へ）



スクロールすると地区のニュースやお役立ち情報が集約しています

Zoom おさらい会

Zoomの使い方講座を終えた方、Zoomを使ってお話ししたい方、この活動は、井の頭一丁目にお住まいの方に限らず、井の頭地区のさまざまな世代がオンラインでつながりながらサロンです。毎回ゲストからのお話やZoomやLINEの使い方などをみんなで楽しく学んでいます。毎回自由参加です。ご参加希望の方は、こちらまでメールをお願いします。

begin.inokashira@gmail.com

日時
—
毎週金曜日14時～16時

場所
—
オンライン

参加申し込み

f t in



週に1回のおさらい会は皆でお話するお楽しみの会となっています。

ニュース



2021年12月6日

地域のお役立ち掲示板

ビギン井の頭では今後掲示板を活用し、サイト訪問者の声を活用してサイト作りをしていきたいと思ひます。最近引越してきた方、子育てをこれからされる方、地...



2021年11月29日

ウェブサイト进行测试公開中

Begin Inokashira 高早に予約版を公開いたしました。ありがとうございます。このウェブサイトは、現在テスト

地域の掲示板の設置やニュースなど地域情報資産を蓄積できます

ニュース



2021年12月6日

地域のお役立ち掲示板

ビギン井の頭では今後掲示板を活用し、サイト訪問者の声を活用してサイト作りをしていきたいと思ひます。最近引越してきた方、子育てをこれからされる方、地...



2021年11月29日

ウェブサイト^ををテスト公開中^で

Begin Inokashira 高層ご予約を^ご願ひください

地域の掲示板の設置やニュースなど地域情報資産を蓄積できます